



私はあごが出ていますが、木村拓哉（キムタク）です。

『自分がどうにもできないことは、くよくよしない。』

『いじめっ子は、大人になったら犯罪率が高い。』の巻

校長 濱田晴明

私は、あごが出ています。小学校2年生の時、「あご」などとあだ名で呼ばれ、毎日、鏡を見て、「なんであごが出ているの。」とくよみました。

3年生になった時、あごの矯正するために、新潟の病院へ、ほとんど一人で3年間通いました。歯を抜いたり、毎日、ヘッドギアであごをゴムで押さえたりしました。しかし、6年生の時、「矯正では、完全に治りません。あとは骨を削る手術をするしかないです。」と言われました。

落ち込んでいたとき、保健室の先生が、「体の中で、どうにもできないことがある人は、たくさんいるよ。例えば、病気で腎臓や肺が一つしか無い人。顔に大きなあごがある人など。あなただけではないの。実は先生にもあるの。でもね、いつまでもくよくよしていても何も解決しないの。自分の体が治らないことを受け止め、気持ちを切り替え、明るく生きていくことが大切だよ。」と言われました。

その後、あだ名で呼ばれても「だれにでもある。どうしてもなおらないことをくよくよしてもしょうがない。自分が悪いのではない。」と考え、気にしないでいました。そのうち、なぜか、いやなあだ名で呼ばれることが少なくなりました。

経営の神様の松下幸之助（パナソニック元社長）は、自分の成功は「貧乏」「小学校中退」「病気がち」だったからと言っています。「貧乏」だったからお金のありがたみが分かり、「小学校中退」だったから人の教えをしっかりと聞き、「病気がち」だから自分の代わりに動く人材を育て、成功を収めたのです。「くやんでばかりいるより、現実を受け止め、考え方・とらえ方を変え、前に進むことの大切さ」を、今後も子どもたちに学ばせていきたいです。

ところで、最近、米国の3人の研究者が、長い期間に渡って調べた成果を発表しました。『小学校2年生でいじめをした子どもの24歳時の犯罪率は、そうでない子どもの6倍。』『8歳のときにいじめをした男子は、大学を卒業できなかったり、就職することが難しかったりする。』『いじめをした女子は、母親になったときに虐待を行うことが多い。その虐待された子どもも、いじめをすることが多い。』つまり、「いじめをすると大人になってからも悪いことをする傾向がある。」のです。

上記のことを10月の全校朝会で話しました。その時の子どもの感想です。

【こどもの感想作文の一部】

- ・校長先生は、本当はいじめられた話をしたくなかったのに、「いじめをしたらだめ。」とみんなに知ってもらいたかったから話したんだと思う。「いじめはぜったいしない、自分は人からされていやなことはしない・言わない。」と思った。



ちなみに、私は現在もあごが出ていますが、教員になってから約30年間、「私は木村拓哉（キムタク）です。」と堂々と言ってきました。批判は、誰からもありません??? 「全ては自分の考え方に一つによって変えられる。」のです。今後もあごのことは気にせず、（心は「木村拓哉」になりきり）、くよくよせずに前を向いて生きていきます。

みなさんも、ご自身の体験を話し、子どもたちの健全な育成を図っていきませんか。